

銚田市まちづくり 推進会議広報

IPPO ～ 一歩 ～



第17号

令和2年5月25日発行

巻頭写真：第20期ほこた塾基本講座⑥にて 野村塾長と全国骨髓バンク推進連絡協議会顧問の大谷貴子氏

特集

ほこた塾 20期達成

塾生として塾長として

第17～20期ほこた塾塾長 野村正満

まちづくりの担い手育成を目的とした「ほこた塾」は、1999～2000年度の第1期に始まり、以降毎年1期ずつの開催を積み重ね、2019年度ついに20期を達成しました。

1期開催するだけでも大変なこの活動を、20期の長きにわたって休みなく続けてきたことは、誇るべき実績と言えるのではないのでしょうか。そして、20年の歳月は世代交代を進め、昔のことを知らない会員も増えてきました。

そこで、今回のIPPOでは、20期を達成した「ほこた塾」を特集し、3名の塾長経験者の方々に「ほこた塾」にかける想いや、よもやま話を語っていただくことにしました。懐かしいお話も飛び出すと思います。それでは、ごゆるりとお楽しみ下さい。

知人は誰もいない銚田に家を建て引っ越して1カ月ほど経った2009年9月、前夜からおかしかった腹部に激痛が走り、耐えられませんでした。小便はコーヒー色、シビアな黄疸症状が出ています。すぐに病院に……と思ったものの、どこに行くのか見当もつきません。結論としては急性胆嚢炎、いわゆる胆石でした。いろいろありましたが、いのちは何とかすることができました。

病院はもちろん散髪はどうしよう、とか転入者にとって、その地で生活するにはあらゆる情報が不可欠です。暮らし始めたものの銚田のことが何も解っていないことに気づきました。もっと知りたい、と思いました。

うちの女房殿がその存在を聞きつけて、2年続けてほこた塾の塾生(第15・16期)になりました。銚田という町の生い立ちや地域性、茨城県の立ち位置等、大い

に学ぶところがありました。また、ほこた塾を通して友人の輪が広がり、都会生活しか知らなかった私に新鮮な体験の場を与えてくれました。

そんな折、ほこた塾の塾長を仰せつかることになってしまいました。第17期から20期までの4年間は塾長として、テレビ番組の制作現場にいた職業や長年携わってきた骨髓バンク運動のボランティアを通して、あるいは学生時代からの友人などに協力してもらいながら、ほこた塾の運営を担ってきました。

やはり、功成り名遂げた講師たちの話は含蓄に富み、物事の考え方はユニークで、より若いもっと多くの銚田市民に聴いてもらいたいと思います。同時に人生百年時代の今、仕事をリタイヤした世代には、ずっと学び続ける姿勢が重要だと思料します。

第20期という歴史の節目を通過したほこた塾ですが、これからも時代に敏感なテーマを、銚田というローカルな視点で、的確な判断ができる内容でより充実したものになることを希望します。しかし、少し予算が乏しすぎますね。もう少し余裕があれば、もっと魅力的なコンテンツになるのではないのでしょうか。

「ほこた塾」の思い出とこれから

第5、6、8期ほこた塾塾長 額賀君子

人材育成部会では「ほこた塾」を運営し、令和元年度で20期となりました。

8期の時、アフリカ・ザンビア孤児院に物資を送る事業がありました。「カシシ子どもの家支援プロジェクト・銚田」と称し、子供の衣類や靴、文房具等を市民に呼びかけ大量の支援物資を集めました。その支援物資を多くの皆さんと分類し、段ボールに入れ船便で8年間届けました。

孤児院を運営するシスター、マリオーラさんからの礼状には感謝の気持ちに加え、日本のノートを使って勉強する女兒の写真等がありました。

20期のテーマは「一人に一つだけ―大切ないのち」で野村塾長を中心に年間8回の基本講座と2回の特別講座を行いました。私も弘道館の中に上がって説明を聞いたり、関連する借楽園や歴史館等も一日かけて見聞し、大変勉強になりました。

今、直面している「新型コロナウイルス」の影響で、変化する社会にあってどうすれば良いのか、「生きる知

恵」をお互いに出し合い「ほこた塾」が活性化することを願ってやみません。



カシシ子どもの家への支援物資の梱包作業



クリスマスには子ども達の手元に届くことを願い、船便でカシシ子どもの家へ支援物資を送りました。

(写真：小沼勲さん)

ほこた塾通算20期を振り返って

第10～15期ほこた塾塾長 吉田俊郎

「よくまあ20期も続いた。」と関わりを持った方々は感じているのではないのでしょうか。始めた当初は3～4期続けられればと思われていたほこた塾を、ここまで続けてこられたのは、延べ約1,000名に及ぶ参加された塾生の熱気、それに応える多彩な講師陣の情熱、そして行政の表に出ない支援、それから塾長を始めとするスタッフの献身的な協力の賜物だと思います。この間、多数の議会議員や、各種団体の主要な人材、または塾を通して地域の課題を取り上げ活動する有益な人材を数多く輩出してきたのではないかと思います。

今回は特にほこた塾に深く関わっていただいた秀逸な4名の講師の方々をご紹介します。

① 帯刀治氏

1人目は今年1月2日に急逝された茨城大学人文学部名誉教授の帯刀(たてわき)治氏です。

「あの問題に触れるべきかどうか悩んでいるのです。どう思いますか？」第1期ほこた塾入塾式の記念講話に臨んでの帯刀氏の言葉です。実は入塾式の数日前に当時の鉾田町長が公職選挙法違反の買収容疑で逮捕されていたのです。当日はもちろん町長に祝辞をいただく予定でしたが、急遽助役に代理をお願いした多難な船出でした。

島根県出雲大社前の割烹の御子息で、法政大学大学院を経て、何の縁もなかった茨城県の鹿島臨海工業地帯の開発に関心を示し、茨城大学に助手として勤めライフワークとして鹿島に関わりました。鹿島アントラーズの生みの親の1人であり、茨城大学地域総合研究所初代所長、また、NPO法人を育成するためのNPO法人コモンズの初代理事長や茨城放送のディスクジョッキー等も務めた多才な名物教授でした。

第1期、第2期のほこた塾は茨城大学地域総合研究所の指導の下に開催されました。常々帯刀氏は当時の常陽銀行頭取に直談判し、2億円を拠出して茨城大学地域総合研究所を創っていただいたと自慢していたことが懐かしく思い起こされます。



第6期ほこた塾卒業式で講演される帯刀治氏

② 長谷川幸介氏

2人目は長谷川幸介氏。鉾田町町史編纂委員で鉾田町に関わり、鉾田市まちづくり推進会議の前身であ

る鉾田町生涯学習推進会議の仕掛人で、元茨城大学准教授、現在茨城県生涯学習・社会教育研究会会長を務めています。全国的な講演活動等を通して、地域社会の活性化、生涯学習・社会教育への助言を行われており、独特の風貌と語り口は多くのファンを生みました。厳しいほこた塾の財政の中、何度となく謝金無しで講演していただきました。「鉾田とは腐れ縁だからしょうがない！よそで稼ぐからいいよ！」といつも言って下さいました。感謝！

③ 市川紀行氏

作家であり詩人でもあった市川氏は、美浦村村長を4期16年務めました。村民による劇団「宙(そら)の会」を立ち上げ、市川氏創作の演劇の公演を村の公民館で長く続けられました。また、中央競馬会的美浦トレセン誘致や、陸平(おかだいら)貝塚の史料館の整備等にも尽力されました。「文化で飯が食えるか。」という批判にも真っ向から立ち向かい、文化行政を強力に推し進めました。行政の合併問題でも、住民にメリット・デメリットを丁寧に説明し、住民投票を経て、小さくてもキラリと光る村を継続しました。

特に印象に残ることは、当時美浦村もリゾートブームでセゾングループが村内の土地の買収を進めた後、バブル崩壊が起こり撤退する時に、その土地を美浦村に寄贈していったことです。実はセゾングループの総帥提清二氏(筆名は辻井喬)と市川氏は同じ作家としての交流が生まれ、撤退する時に市川氏(美浦村)には迷惑はかけられないと土地を寄贈していったとのことです。その土地の一部は現在市川氏の尽力により花王の研修所及び保養所として生まれかわっています。

④ 友末忠徳氏

4人目は友末忠徳氏です。戦前の官選知事を経て、戦後選挙により最初の茨城県知事となった友末洋治氏の御子息です。時事通信社を経て、途中で茨城新聞社に入り、後に社長を引き受けることとなります。本人曰く、「当時極度の経営不振におちいり、社長の引き受け手が無い状態だったので、自分でも想定していなかった社長職がまわってきたのだろう。引き受ける条件として月1回の主筆としての論説を担当させてもらう旨伝えた所、了解をもらったので社長職を引き受けた。」とのことです。

塾においては、世界における日本・茨城の現状、そして鉾田のこれからの展望等を何度か講演いただきました。その中で、竹内知事が在職中に逮捕された1993年のゼネコン汚職事件や、その後の知事選において橋本知事が誕生するまでのいきさつ等、マスコミ関係者の視点からの政財界の話をたくさん聞かせていただいたことが特に印象に残っています。

さて、話はつきませんが、初代の佐藤邦彦氏から始めて、永田俊英氏、菊巒光夫氏、額賀君子氏、富田光世氏、中根康夫氏、野村正満氏の歴代塾長には大変お世話になりました。

特に野村正満氏には、ふるさと回帰支援センター理事長高橋公氏、前早稲田大学総長で政府の教育再生実行会議座長も務める鎌田薫氏、映画監督の高橋伴明氏など、今までのほこた塾では要請できなかった著名な講師陣の実現に尽力いただきました。中でも第20期の「いのち」シリーズでは、ほこた塾に新境地をもたらしてくれました。感謝感謝です。

ほこた塾が無ければ出会うことの無かった多くの方々との交流が生まれ、より充実した人生が送れる喜びを感じているのは私だけでは無いでしょう。ほこた塾よ、有り難う。

新会長あいさつ

川又利彦

令和元年度から2カ年、鉾田市まちづくり推進会議の会長を担うことになりました。これは全く予期していなかった突然のことで、私にとっては青天の霹靂とでもいべき出来事です。諸般の事情等を考慮して力不足ですが、できる範囲で精一杯、会長の職を務めたいと思います。

前置きが長くなりましたが、これを機に改めて鉾田市まちづくり推進会議について、振り返ってみました。現在の組織の前身は、合併前の鉾田町にありました。その組織は、教育委員会が所管した鉾田町生涯学習推進会議というものでした。この組織が紆余曲折を経て、現在の鉾田市まちづくり推進会議になった次第です。

発足当時は、社会教育という分野があり、生涯学習との違いについての論議も多かった様に記憶しています。生涯学習は、生涯教育とは異なります。ざっくりと

言ってしまうと、生涯にわたって自らが学ぶことであります。社会教育との違いが分かりにくかった事もあり、大半の市町村では、社会教育の延長線上で生涯学習という事業に移行してきたような気がします。

鉾田町は、当初から民間主導の形態を重視し度重なる会議の結果、個人の学習に留まることなく「まちづくり」にまで踏み込んだ生涯学習を実施することが決まりました。これが鉾田市まちづくり推進会議に引き継がれ、現在に至っています。

イメージ的に「街造り」は、主として行政や企業等が行うハード事業だと考えています。一方、「まちづくり」は、住民が関わらなくてはできないソフト事業です。発足当時は、官民が車の両輪の如く、この事業を推進して行くことになっていました。しかし、現在は、そうではないように思えてなりません。

この事業も平成3年(1991年)に始まり、長年続いてきました。しかし、官民が共同していかに住みよい鉾田市をつくるかには、課題も多いと実感しています。現運営委員には頑張って課題を解決していただきたいと思います。



<令和元年～2年度 運営委員会>

会長	川又利彦
運営委員長	田口裕之
副運営委員長	雑賀美丘
事務局長	大木繁夫
会計	野村正満
運営委員	飯島寿博、飯塚克則、雑賀利雄、深作和則、藤井 歩、吉田俊郎、渡辺丘雅
監事	伊藤幸夫、額賀君子

各部会より

FB 掲載ランキングとともに

広報部会

部会長 田口裕之

広報部会では銚田市まちづくり推進会議の活動を多くの方々に知っていただくため、広報誌 IPPO の作成、ホームページやフェイスブック(FB)における活動のお知らせ・報告を行っています。

今回は各部会からの便りとともに、FB 掲載記事のランキングを発表します。**エンゲージメント数**(「いいね!」クリック数、コメント数、シェア数をもとに評価)により順位を決定しました。記事が届いた人数を表す**リーチ数**も参考に示しました。(集計日:令和2年3月31日)

人材育成部会

第20期ほこた塾実行委員長 雑賀美丘

人材育成部会が主催している「ほこた塾」は第20期となった令和元年度も、バラエティに富んだ講座を実施し、多くの塾生に好評をいただきました。



基本講座① 東海林のり子 氏 「事件・事故・災害・芸能界の現場で見てきた『いのち』」

『1人に1つだけ—大切ないのち』をテーマにスタートした基本講座①では、85歳の今もなお現場に飛ぶ東海林のり子さんのバイタリティと、被害者家族にもあえてマイクを向けて命の大切さを訴える使命感の強さを感じました。

基本講座②の村山安寿さんは20歳の医学部生でしたが、探究心や分析力、着眼点の素晴らしさと共に、行動力とチャレンジ精神に感心しました。

FB 年間第1位

第20期「ほこた塾」基本講座② 医療過疎県・茨城の医師不足の遠因は戊辰戦争にあり

エンゲージメント **108** リーチ **719**

栄えある第1位に輝いたのは、東北大学医学部2年の村山安寿氏。20年を超える「ほこた塾」の歴史の中で、最年少のフレッシュな講師でした。



基本講座③④では「痛くない死に方」や「尊厳死」について考えました。「死」を考えることは、とりも直さず、最期の日を迎えるまでどう生きるかを自ら選択していくことだと思いました。



基本講座③ 映画監督 高橋伴明 氏
「新作映画『痛くない死に方』と私の生き方」



基本講座④ 丹澤太良 氏

「延命治療・治癒が見込めない選択そして尊厳死」

基本講座⑤「第8回新春教育フォーラム」では、今の時代だからこそ、郷土愛を育み、つながりを持つことの大切さを学びました。

子どもたちは銚田の文化や歴史をどこまで知っているかこの郷土に魅力を感じられるようにするにはどうするのか転出してもいつかは戻りたいと思えるふるさとへの愛着とは知らなかった銚田の遺産を掘り起こして伝えるためには郷土への愛をこれから次代にどのように繋いでいくのか

FB 年間第3位

第8回新春教育フォーラム(基本講座⑤)
郷土愛を育む教育

エンゲージメント 69 リーチ 308



祭礼などの郷土の文化や芸能を伝承することの大切さ、また、学校だけでなく生涯学習の場を設け意図的に伝えていかなければ繋がらない危機感、自己肯

定感を育む為の歴史教育の重要性などがあげられました。郷土に対する愛着の中には人や風景への懐かしい思いも含まれることなど、参加者も一体となって予定の時間が過ぎても意見交換が続き、大変有意義な教育フォーラムとなりました。

基本講座⑥ではガンを乗り越えて子どもを授かった人たちのリアルな感想に触れ、妊孕性(にんようせい、妊娠の可能性)を残すガン治療をだれもが受けられるように制度化することが急務であると感じました。



基本講座⑥ 大谷貴子 氏

「ガンは克服できても…AYA 世代・若者のガン治療と妊孕性温存のために」

基本講座⑦では、障害を乗り越え、アーチェリーで世界と戦ってこられたヒーローが身近にいたことに驚き、誇りを感じました。



基本講座⑦ 飯島寿一 氏

「障害とともに歩んだアーチェリー」

2回の特別講座では、河岸(かし)をめぐり、かつて水運で栄えた銚田の姿に思いを馳せ、古地図をもとに昔の水戸城や弘道館、偕楽園でのタイムスリップを楽しみました。



特別講座① 渡辺俊夫 先生 「河岸めぐり」



特別講座② 弘道館主任研究員 小坪のり子 先生
「古地図で巡る水戸城・弘道館・偕楽園」

最後の基本講座⑧は放送作家の視点から日本語の発音や茨城なまりについて、野村塾長から語っていただきました。



基本講座⑧ 野村正満 氏「正しい日本語の発音と茨城訛り」

塾生及びオブザーバーのみなさん、ご参加いただきありがとうございました。

来期も充実した塾となるようにスタッフ一同工夫して行きたいと思っております。

仲間づくり部会

部会長 深作和則

令和元年度私たち仲間作り部会の活動としましては、婚活事業を4回開催しました。7月に水戸で大人の婚活、9月に水戸ミニ婚活と鉾田ミニ婚活、12月にとちぎ海浜自然の家でのゲーム婚活を開催し、延べ68名(男性37名 女性31名)の参加者があり計4組のカップルが誕生しました。

今年度活動をしていて感じたことは、年々参加申し込み数が減少し、開催が厳しい状況にまでなってい

るなということです。実際に今年度は6月のメロン結婚と1月の大人の婚活が参加者不足のため中止となりました。また、3月のケーキ作り婚活につきましても新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とさせていただきます。

FB年間第2位 婚活 de まちづくり ロールケーキ作りとお芋スイーツ婚活 エンゲージメント 94 リーチ 1,054

残念ながら中止となりましたが、第2位と大健闘でした。リーチ数は鉾田市まちづくり推進会議として初の千越えを記録しました。



※本企画の開催は、婚活おまじろり事務局、弘道館の協賛で、また、おまじろり事務局が主催する婚活おまじろりとして開催いたします。おまじろりの協賛が得られることにより、おまじろりの協賛の方向に開催の場を確保し、おまじろり事務局が主催する婚活おまじろりとして開催いたします。

開催日：2020年3月15日(日)

時 間 AM11:00~PM15:30(受付AM10:30~)
会 場 ホテルさわや ☎0291-33-2168
住所 鉾田市錦町1-2-2
内 容 立食パーティーとロールケーキ作りとお芋スイーツ
参加資格 男性 30才~45才くらいの独身者
女性 独身者
募集人数 男30名 女20名
参加費 男性2,000円 女性2,000円
服 装 出会いの場にふさわしい服装でお願いたします。

申し込み締切：2020年2月24日(月)

申込先

※男性と女性の参加者数は同数ではないことをご了承ください。



担当 藤田
携帯 090-2604-4445
担当 深作
携帯 090-3529-6730

主催 鉾田市まちづくり推進会議 仲間づくり部会 後援 (一社)いばらき出会いの場 145509-

結婚を希望する男女は多数おられるのは確かですので、婚活事業の内容と併せて、PRと申込方法の工夫が必要ではないかということも強く感じました。その点を踏まえまして次年度は、沢山の方へのPRと24時間時間を気にせず申し込みをできるようにSNSを使っているPRと申し込みができるよう始動したところです。

引き続き、今年度の反省を踏まえ、なるべく多くの方々に出会いの場の提供ができるよう工夫を重ねていきますので、独身の方は是非気軽に参加していただき、

素敵なお相手と巡り合っていただければと思います。

最後に私たち仲間づくり部会では婚活ボランティアスタッフを募集しています。老若男女問わず一緒に婚活事業を企画運営し銚田市の婚活を盛り上げていきましょう。



とちぎ海浜自然の家でのゲーム婚活

自然環境部会

部会長 大木繁夫

令和元年度は、自然観察会を 11 回、清掃活動 4 回、移動研修を 1 回開催し、北浦北部を中心に近隣の豊かな自然環境についての理解を深めました。絶滅危惧種や天然記念物を含む多くの貴重な生態系が身近に存在することを、実際に見て・聴いて・感じて学ぶことができました。

6 月 9 日(日)の清掃活動では、特定外来生物「オオフサモ」の駆除に、自然環境部会として初めて取り組み、大きな手応えがありました。北浦北部には他にも「アレチウリ」が目立っており、「オオキンケイギク」も近くまで迫ってきています。在来種を守るため、これらの駆除に積極的に取り組む必要があります。

カムリカイツブリの誘導浮巢設置にも継続的に取り組みました。しかし、残念ながら、10 年連続を達成した雛の誕生記録が、今年度ついに途絶えてしまいました。北浦北部のカムリカイツブリの営巣環境は悪化の一途をたどっており、予断を許さない状況にあります。

11 月 30 日(土)、今年度開校した銚田南小学校の PTA 主催のイベントに自然観察の出し物「昼間の三日月を見つけよう」、「植物とあそぼう(ムクロジの実の皮を用いた石鹸作りと、トチノキの樹液で蛍光塗料のように光る絵文字を書く実験)」の 2 つで参加し、多くの子どもたちに自然にふれあっていただきました。自然環境

部会としては大いなる前進です。子どもたちに身近な自然を実際に見て・聴いて・感じてもらえるような活動に今後も力を入れていきたいと思っています。

FB 年間第 4 位 銚田南小学校 PTA 主催のイベントに参加

エンゲージメント 61 リーチ 184



(写真: 小沼勲さん)

編集後記

令和元年度も各部会長をはじめ部会員、参加者の皆様のご協力で充実した楽しい活動ができました。その中で人材育成部会事業であるほこた塾が 20 期の節目を迎え、歴代の塾長の方々にその想いを綴って頂きました。一言で 20 期と申しますが、皆様の期待と行動の積み重ねの賜物と改めて感謝いたします。

今般、コロナ禍のために書面参加型の総会等になってしまいましたが、FB 等にもご意見をお寄せいただきまして、より充実した情報をお届けできるように、これからも頑張っていきたいと思っていますので、宜しくお願い致します。

H.T.